

内部評価の結果

【事前評価2】新科学館整備事業

【評価結果】

計画どおり実施

【評価理由】

児童文化科学館（以下、「現科学館」という）は、「幼児及び小・中学校の児童・生徒の文化の向上と科学教育の振興を図る」こと等を目的とし、年間10万人前後の方に利用されている本市唯一のプラネタリウムを備えた施設である。

現科学館は開館から50年以上が経過し、建物・設備ともに老朽化が著しく、また、展示物も陳腐化していることから、八幡東区東田のスペースワールド跡地（イオンモール新施設敷地内）へ移転し、新科学館を整備する。

新科学館は、今般の人口減少や若者の理科離れなどの中、「ものづくりの街」として将来を担う人材の育成・確保や教育の観点から、重要な役割を持つ社会教育施設であるとともに、博物館群やイオンモール新施設等の周辺施設と連携し、新たな賑わいを創出する集客施設である。

なお、本事業における実験・工作教室等の教育普及機能は、新科学館とコンセプトが類似している北九州イノベーションギャラリーを最大限活用し、一体的に整備することで、より効果的・発展的な事業を行う。

以上を踏まえ、将来を担う人材の育成や理系人材の確保、また、地域の更なる活性化や交流人口増加に寄与することから、現科学館での実績を踏まえつつ、これからの時代を見据えた新科学館の整備を計画どおり実施することを対応方針として決定した。

公共事業調整会議では、社会教育施設としての機能とともに、東田地区への移転効果を踏まえた集客施設としての機能も重視した整備を行うこと、また、北九州イノベーションギャラリーとの一体的整備による効果を発揮できるようにとの意見があった。

この意見については、運営方法や料金体系、企業・大学等との連携など、「新科学館 展示・運営検討会」において聴取した意見等を踏まえて具体的に検討していきたい。